

Japan Architectural Review

International Journal of Japan Architectural Review for Engineering and Design

JAR創刊について

Japan Architectural Review—International Journal of Japan Architectural Review for Engineering and Designが2018年1月に創刊されます。これは、2016年4月に示された本会の「建築の未来への貢献—これから10年のビジョンと中長期計画—」に基づくものです。その中に行動項目⑩：国際的な専門誌の育成という項目があります。

日本の建築に関する研究は世界的にも非常にユニークです。建築に関しては特に地域性が高いため、気候や地震、災害などに対応した多くの独自の研究が行われてきました。本会では建築デザイン、建築計画、都市計画、農村計画、建築史、構造、材料・施工、環境設備、情報など様々な分野が融合していることも特徴です。世界的にもこのような体系で発展してきた国は多くはないでしょう。そのため業績は建築学会の和文論文集に論文が掲載されることで評価を受けてきました。日本の建設業界も内需性が高く、日本語で発表することで大きな問題はありませんでした。

国内的にはこれまではそれで充分でした。研究内容の地域性が高ければ、わざわざ英語で発表をする意味も少なかったのです。また、文化的な背景や研究は言語とともにあるためわざわざ英語にすることに意味があるのかとの議論もあります。しかしながら、国際的な評価は英語を基盤に進められており、日本語で多くを考え、発表するだけでは国内の大学の評価においても問題が生じるようになってきました。大変優れた和文論文を多く出している、その論文集にインパクトファクター（以下、IFと呼ぶ）がなければ、国際的には成果はゼロと見なされてしまいます。IFの是非はありますが、少なくとも他分野と同じような努力をしてきた建築分野の若手研究者が、共通の土俵に立った時に明らかに不利になるような状況は変えておかなければなりません。

学術成果が世界標準にそって評価される時代に移行する現状を踏まえ、我が国の建築学に関する学術・技術成果を英文で発信する堅固な発信媒体が必要であるとの合意に至り、2016年11月29日の理事会にて新国際英文ジャーナルの創刊が決定されました。この国際ジャーナルJARは世界的な学術出版社であるWileyより電子出版によるオープンアクセスジャーナルとして出版します。年間4回の発行を計画しています。ちなみにジャーナルの表紙のデザインは、建築学会のロゴマークをデザインしたものです。

一方で本会では、JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering) という英文誌が2002年に創刊され、2010年からオープンアクセスジャーナルとなっています。IFを獲得し一定の評価を得ています。JAABEは日中韓の3学会が共同で運営し、英文で投稿されたオリジナル論文を掲載しています。これに対してJARは日本語で書かれた優れた論文を中心に英文化して収集することを考えています。

JARは、編集者記、レビュー論文、デザインレビュー、翻訳論文、オリジナル論文の5つのカテゴリーで論文を掲載して行く予定です。特に特徴的なのは、デザインレビューでしょう。日本の建築デザインは国際的にも優れていることが良く知られていますが、英語で紹介されたものは必ずしも多くありません。大学や研究機関での業績評価にも役立つ論文を考えています。本会が出版する作品選集に過去数年に掲載された作品からの応募がその基盤となります。そこから、年間16作品の掲載を予定しています。作品選集を受賞した作品には積極的な応募を期待しています。

また、翻訳論文に関しては、構造系、計画系、環境系論文集に掲載された論文から年間28論文の掲載を予定しています。論文集には年間約600編の論文が掲載されていますが、日本語で書かれているため、非常に高度な内容であるにも係らず前述したようにこれまで国際的にはインパクトが0という状況でした。和文で査読論文を掲載した後に英文論文を海外のジャーナルに投稿する場合は、二重投稿・二重出版などの問題がありますが、双方のジャーナル間での合意、翻訳論文であることの明記、異なる読者を対象とした完全なる翻訳論文という体裁を取ることでJARにおいては二次出版として掲載できるようになりました。極めて優れた和文論文が英文として出版されることにより国際的な競争にも対応が出来ると考えています。2017年1月から日本建築学会論文集の投稿規定が変更になり、図表、参考文献の英文化が原則的に必須となりました。このように図表や参考文献が英語になっている論文ではJARへの投稿はこれまでよりも簡易になります。

加えて、レビュー論文も日本建築学会で精力的に研究を行われてきた先生方に人生を振り返るような研究の歴史を語って頂けないかと希望をしています。また、将来的には海外研究者のレビューを頂けることも期待しています。JARのスコープに一致するオリジナル論文も少ない数ながら募集します。

そうはいつでも日本人には英語で簡単に論文を書けるような能力を持った方々が多いとは思えません。私自身も和文論文を執筆する5倍以上の労力が必要になりますし、時間もかかります。そのため、編集委員会ではトップレベルの内容と同時に海外の方々がその内容を理解できるように英語の校閲にも力を入れる予定です。エディター制を採用していますが、厳格なピアレビューも行われます。もちろん、JARは編集主幹や編集委員が頑張るだけでは良い雑誌にはならないのです。本会会員からの貢献があってこそ成り立つものだと考えています。通常はかなりの費用がかかる商業出版社からのオープンアクセスジャーナルですが、当面会員の掲載料は無料とすることが理事会で決定しています。

Japan Architectural Review編集委員会委員長／
編集主幹 (Editor-in-Chief) 田辺新一